



館中たより

第22号 平成30年10月19日 発行 文責 校長

新生徒会役員決まる！

10月12日(火)に生徒会役員選挙立会演説会が開かれました。その後投票が行われ、新生徒会役員が選出されました。

立会演説会では、各立候補者が堂々とした発表態度で伝統を引き継ぎ、新たな館中にできるように、公約を述べました。新生徒会役員は、来週行われる校内文化祭(爽樺祭)で現生徒会役員から仕事が引き継がれ活動が始まります。ぜひ、教育目標「自立」のもと、主体的に生徒一人一人が活動できる生徒会になるよう期待しています。新生徒会役員は右記のとおりです。

【会長】	2年 Hさん	
【副会長】	2年 Hくん	2年 Hさん
【庶務】	1年 Hくん	1年 Sさん



道徳授業研究会

10月15日(月)の1年道徳の時間に、宇都宮大学教職大学院 准教授 和井内良樹先生、南会津教育事務所 指導主事 飯塚敏明先生を講師に招き、校内道徳授業研究会が行われました。

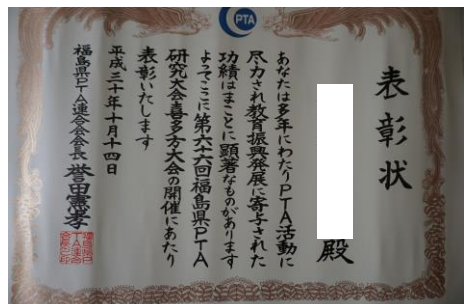
道徳の授業では、資料「見沼に降る星」を用いて、生命の尊さについて学びました。友人の死について「命」とどのように向き合い、どのように生きていくか、一人一人じっくり考え、その思いを友人に伝えていました。そして、授業の最後にあなたは「生きている」今をどのように過ごしていきますかという担任の問いに対して、真剣にプリントに自分の思いを書いていた。

授業の後、道徳の授業に対して研究協議会が開かれ、参観した先生方から活発な意見交換がなされました。そして、和井内教授から指導助言をいただき、今回学んだことを11月12日(月)に行われる南会津域内道徳教育地区別推進協議会の公開授業に向けて生かしていきたいと思えます。



前PTA会長 I氏 県PTA連合会会長から表彰状

10月14日(日)に喜多方市で県PTA研究大会が行われ、その席上で前PTA会長 I氏に県PTA連合会会長から表彰状の授与がありました。この賞は長年のPTA活動や教育振興発展に寄与した功績で表彰されるもので、I氏は中学校で3年間PTA会長を務め、本校のPTA活動の発展に大いに活躍されました。おめでとうございます。



ネット長時間利用による問題

10月14日(日)の県PTA研究大会喜多方大会で元弘前大学教授でネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会共同代表の大谷良光氏の講演会がありました。

講演では、「SNSをはじめとした情報社会で親や教師はどう子どもとかわかっていけばよいのか」という演題で話がありました。

大谷氏の話で、保護者、生徒に伝えたい部分は、

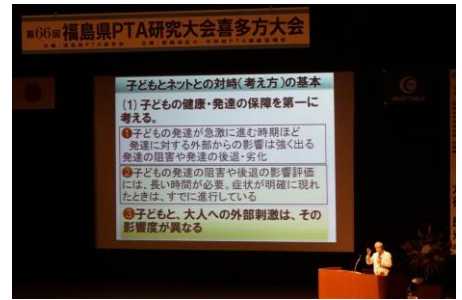


表1のデータで、スマホを全くしていない生徒より、1時間未満利用の生徒の方が成績が良い点。スマホを1時間以上行くとやればやるほど成績が下がり、2時間以上勉強をしても成績は下がる点。

勉強をしても成績が上がらない。どのように勉強をすればよいのかと考える前に、スマホ等のネット利用時間はどれくらいあるのか、もう一度振り返る必要があります。

また、1時間程度スマホを利用すれば、成績が上がらなくても、成績が上がるわけではなく、

ネット利用時間を自分でしっかり守ることができるのか、自分を律することができるのか、自己マネジメントができる生徒が成績が伸びるようです。また、そこには家庭でのネットの約束事があり、それをしっかり守れる家庭環境が必要です。

表2のデータは驚きです。●●●の利用時間が長ければ長いほど成績は下降線をたどっていく。そして、2時間以上勉強しても、●●●を利用すると成績が下がるという結果です。

表7のデータも驚きです。●●●の利用時間が長ければ長いほど成績の平均偏差値が下がっていく結果です。●●●を4時間以上行くと●●●を使わない生徒と比べて偏差値が10違うというデータです。

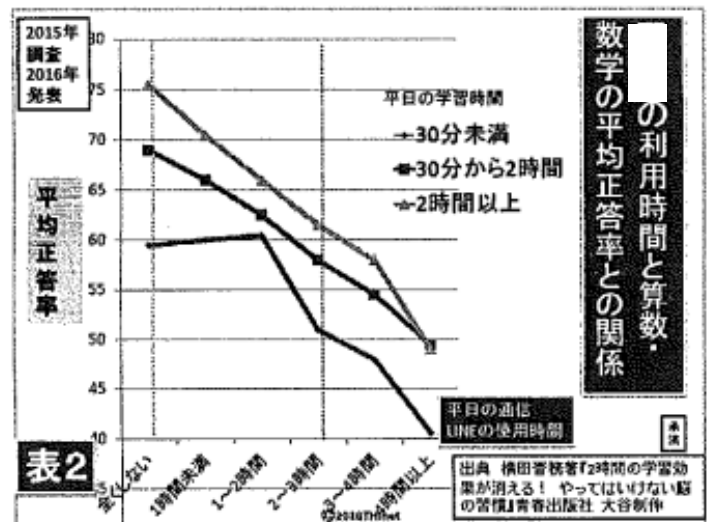
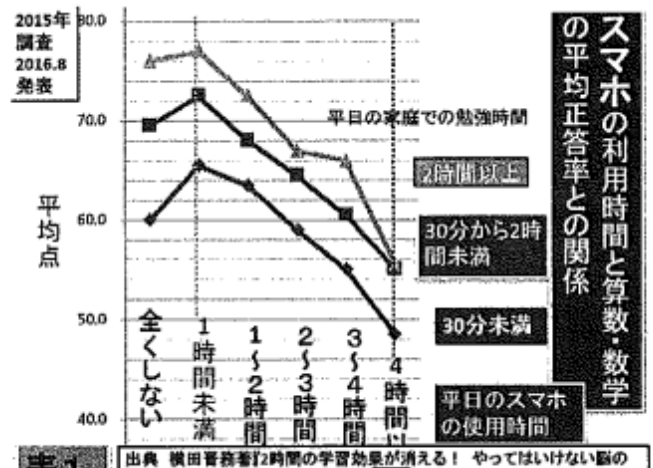
毎日勉強を2時間以上行っても成績が伸びない、勉強がわからないといった場合、スマホ、LINEの利用時間が大きく関わっているのがわかります。

●●●使用時の問題点は、通知音による集中力の低下・障害です。勉強をしても通知音で集中力が途切れます。また、相手が既読したか気になり、●●●がいつも気になることです。

学習中にスマホを使用するマルチタスキングで、集中力、思考力、判断力、記憶力の低下・障害が起きます。

また、●●●等は友人関係のトラブルのもとにもなっています。

勉強がもっとできるようになりたい、良好な友人関係を結ぶためには、もう一度、スマホ、LINE等SNS利用について家庭でじっくり話し合うことが大切です。



利用者の利用時間と成績の関係

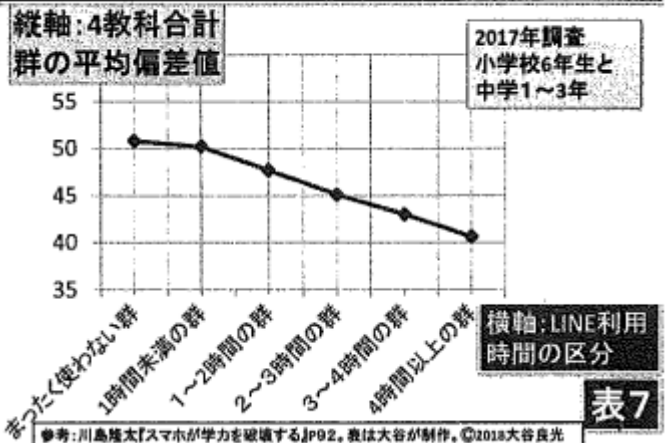


表7 参考: 川島隆太『スマホが学力を破壊する』P92. 表は大谷が制作。©2018大谷良光